

柱1 「授業の充実」

(1) 授業の質的改善①: 子供が考え活躍する授業(主体的・対話的で深い学び)

① 発達段階に応じた指導の要点とねらいの設定

- <授業づくりの仕方>**
- ① 「内容項目の概要」と各学年の「指導の要点」の把握(指導観)
 - ② これまでの学習状況及び児童の実態の把握(児童観)
 - ③ 教材の特質の把握・活用方法の検討(教材観)
 - ④ 主題・ねらいの設定
 - ⑤ 学習過程の設定
 - ⑥ 発問の設定

② 「金子の道徳」(金子道徳スタンダード)を活用した授業づくり

- <3つの要素を意識した授業づくり>**
- ・登場人物への自我関与が中心の学習
 - ・問題解決的な学習
 - ・道徳的行為に関する体験的な学習

- <各学習過程のポイント>**
- 【導入】**
問題意識をもつ時間
(アンケートの活用、教材への関心づけ等)
- 【考える】**
価値について、自分の考えを深める時間
- 【振り返る】**
道徳的価値について「今までの自分」を振り返り、「これからの自分」を考える時間

- <多面的・多角的に考えるための工夫>**
- ・考えたい問を投げかける。
 - ・受容→切り返す問、揺さぶる問で考えを深める。
 - ・対話活動で様々な考えに触れる。(教師、友達、主人公、自分との対話)
 - ・思考ツールの活用(心情円盤、帽子、座標軸、名札、付箋紙、ホワイトボード等)

③ 道徳ノート「こころノート」の活用

自分の気持ちや考えを、**こころノート**に書いてみよう。

～いかに～

よくかえらねましたか。 10 ○ △

かんがえをともだちにつたえられましたか。 10 ○ △

ともだちのほっぴょうをしっかりときましたか。 10 ○ △

～自分のこと～

9/14 サッカーでプレーに集中して、チームに強く言っていました。友達の話を聞きながら、自分も頑張りました。

10/13 転校生がやっていた、転校生だけでなく、誰にでも、友達にも差別はよくない。でもこの学校は差別が無いと気付いた。

10/26 「友との約束」で自分もそういう体験をした時、悔しい気持ちでいっぱいでした。次からは、やさしく心掛けて待つようにしたいと思います。

金子小学校 こころノート
～考えよう よりよく生きるために～

日ごろ考えたことや、感じたことや、気付いたことを、書きとめておきましょう。

～自分のこと～

9/14 サッカーでプレーに集中して、チームに強く言っていました。友達の話を聞きながら、自分も頑張りました。

10/13 転校生がやっていた、転校生だけでなく、誰にでも、友達にも差別はよくない。でもこの学校は差別が無いと気付いた。

10/26 「友との約束」で自分もそういう体験をした時、悔しい気持ちでいっぱいでした。次からは、やさしく心掛けて待つようにしたいと思います。



「金子の道徳」

考え、議論する道徳のために

段階(時間)	指導	留意点
導入 内容項目の確認(5分)	・本時の内容項目を押さえる。 ・アンケート結果やニュース、画像等を活用し、興味を持たせたり、問題意識を高めたりする。 【発問例】 「今日の道徳の学習では〇〇について考えます。」 「先日のアンケート結果はこうなりました。」	【指導上8つのポイント①】 はじめの1分で引き込む(視覚化) (驚き、喜び、意外性、図、写真、音、物など) 【指導上8つのポイント②】 価値へ方向付けて焦点化 (フラッシュカード、短い言葉で、印象的に) ※しっかり板書する。
考える (25分) 教材文の範読	・教師による教材文の範読 ※全文通読するのが基本 ※教師の意図で場面を区切るのも可。	【指導上8つのポイント③】 範読前に条件・状況のおさし (主人公に十分共感させる。挿絵を活用し、要領よく端的に行う。続きが知りたいと思わせる工夫を。) 【指導上8つのポイント④】 範読勝負 (一度の読みで心に響かせる。問(ま)の技。)
展開前段	【多面的・多角的に考えるための発問】 ・(主人公)は、どのような気持ちだろうか。(共感場面発問) ・(主人公)がそうしたのにはなぜだろう。(行為を支える動機を問う分析的な発問) ・(主人公)がしたことやどう思うか。(批判的で本質軸を変える発問) ・～のとき、自分だったらどうするか。(投影的で対象軸を変える発問) ・もし～だったらどうか。(条件軸を変える発問) ・この出来事によってどのように変わったか。(時間軸を変える発問) ・それってどう思うか。何でそう思うか。(児童の発言を深く掘り下げる発問)	【指導上8つのポイント⑤】 共感発問で、人間の弱さに心寄せさせる (葛藤への伏線、マイナスの面の心を引き出す。) 【指導上8つのポイント⑥】 葛藤の発問で心をゆさぶる (道徳は気づきの学習。プラスの考えをマイナスの子に聞かせて価値の変容を図る。児童の曖昧な表現や言葉の価値観を「見える化」する。) ・問い返したり、ゆさぶりの発問を投げかけたりするなど、共感で終わらず、問い続ける。 ・発表は意図的に指名し共有化・焦点化する。 ・児童の発表は、価値にそって精選して板書する。(構造化)
展開後段	※基本発問は3つまで。(主発問を含む) ※主発問は・・・「ねらいとする価値を深く追求させる発問」。時間を十分確保して、「こころノート」を活用する。	【指導上8つのポイント⑦】 自分を見つめさせる時間を (振り返りやすい手立てを。) ・「君ならどうする?」等の発問で、自我関与へ。 ・本音を言っても責められない学級づくり(授業の基盤は学級経営)
終末	・自分自身の日頃の行動を振り返らせ、ノートに記述させる。 ※こころノートの活用	【指導上8つのポイント⑧】 終末は余韻を持たせて (価値を押しつけない。)
教師の説話等(3分)	・本時の内容項目に応じた、教師の説話を行う。 ・説話だけでなく名言や詩など、工夫をこらす。	【指導上8つのポイント⑧】 終末は余韻を持たせて (価値を押しつけない。)

(2) 授業の質的改善②: 丁寧でわかりやすい指導(ユニバーサルデザイン化)

① 落ち着いた環境づくり



刺激量の調整(黒板周辺)

② ユニバーサルデザインにもとづく授業づくり



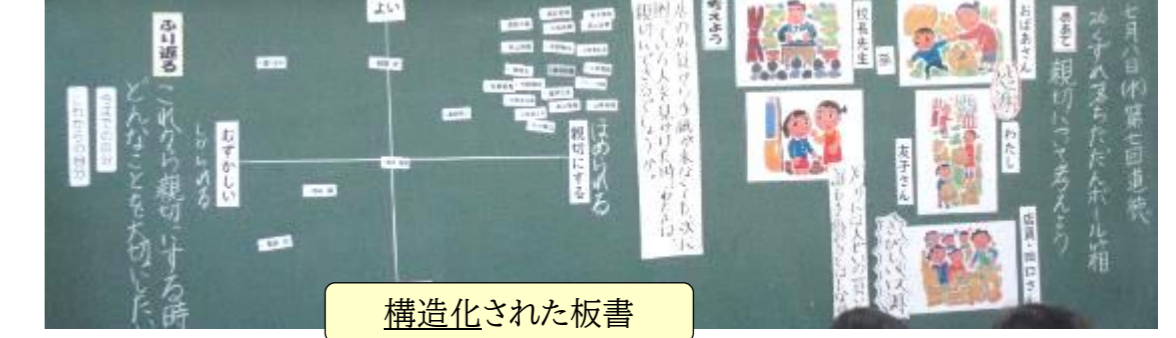
視覚化を重視した提示の工夫:写真、絵、実物等

「主人公は何と何で迷っていますか。」(限定発問)、「〇〇の場面の前と後では、どう違いますか。」(関連発問)、「〇〇さんの考えについて、どう思いますか。」(考えを広げる発問) 等

児童の考えを焦点化する発問



ペア、グループ、全体での共有化



構造化された板書

柱2 「日常活動の充実」

(1) 教育活動全体で取り組む道徳教育



(2) 心を育てる環境づくり

～命について～

命の大切さを考える日の講話朝会 感想
それほど命が大事なことばかりです。命は大切で一つしかなくて一度しかつかない。一つで大事な物です。お母さんとお父さんいささず、世界一大事は命が人々持っている。世界の人々は命

～命について～

個性はね
ひとりひとりの
たからもの
言葉には
自分の性格
表れる

～命について～

考える
相手の気持ち
人権標語紹介

～命について～

無言清掃

～命について～

講話集会(命について)